

カンガルーシップ活動


## 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日 平成29年2月24日

主管学校名 岐阜大学教育学部附属学校

PTA会長名 末武 悟

|      |       |                    |
|------|-------|--------------------|
| 実施概要 | 主管校   | 岐阜大学教育学部附属学校       |
|      | 交流校   |                    |
|      | 実施活動名 | 就労支援               |
|      | 実施日時  | 平成29年2月22日         |
|      | 実施場所  | 岐阜大学教育学部附属学校 会議室   |
|      | 実施目的  | 共生的な学校づくりと社会参加に向けて |
|      | 実施内容  | 講話                 |
|      | 実施方法  | 講演会 交流             |
|      | 参加人数  | 30名                |

|      |    |   |
|------|----|---|
| 報告事項 | 内容 | <p>「笑顔あふれる学校・社会づくり」<br/>岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 安田 和夫先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害についての理解<br/>障害のある生徒が環境によって、どのように感じ、行動をするのか</li> <li>・ 障害のある生徒の特性と関わり方<br/>個性と捉え、その生徒の力をどのように高めていくとよいか。</li> <li>・ 就労の実態<br/>就労の厳しい実態<br/>進路・就労をどのように支援していくとよいか。</li> <li>・ 社会全体の取り組み<br/>合理的配慮<br/>家庭での取り組み</li> </ul>  |
|      | 結果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害特性について、正しい理解することができた。</li> <li>・ 障害特性に合わせて、周囲がどのように話を聞いたり、関わりを持ったりするとよいか理解することができた。</li> <li>・ 現在の就労の状況、就労者の悩み、取組について理解することができた。</li> <li>・ 合理的配慮とは何か、どのように配慮するとよいか共通理解することができた。</li> <li>・ 家庭で子供たちにどのように声をかけ、気持ちを聞くとよいか分かった。</li> <li>・ 自己肯定感を高めるためにどのように、家庭でどのような取組をするとよいか分かった。</li> </ul>  |
|      | 所感 | <p>今回は、施設見学と講話の予定をしていたが、見学先の諸事情により、講話のみになってしまった。直接、就労している方の姿や話が聞くことができなかつたことは残念であったが、安田先生の話聞いて、障害についての理解と、今後我々が何をしたらよいかがよくわかる話であった。</p> <p>今回の話を基にして、来年度の就労先の見学に結び付けたい。</p>   |

添付書類

参加感想、収支決算書、領収書添付シート

# カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 参加感想

提出日 平成29年2月24日

学校名 岐阜大学教育学部附属学校

「笑顔あふれる学校・社会づくり」

岐阜聖徳学園大学 安田和夫先生 講演会

## \* 異質なものはじきだす世界に違和感

アメリカ大統領選を機に世界中で異質なものはじき出そうとする動きが表面化しているように感じます。それは日本も、地域も、そして私たち一人一人の中にも浸食してきているようです。だからこそ、子供のころからお互いの違い（人種、民族、障がいの有無、個性など）を認め合い、相手を思いやる心でその溝を埋めていく過程を学ぶ必要があると思いました。

## \* 「伝える」ことの難しさを実感

始めに二人ペアになって先生が出題された問題を片方が絵の描写だけで相手に伝えるというゲームを行いました。このゲームでは言葉・文字によるコミュニケーションに頼っている私たちが「言葉の使用」を禁止されたとき、どれほど伝えることが難しいかを実感しました。そして、なにより伝わることの喜びも実感できました。障がいのある、なしに関わらず、あらゆる場面で誰かに何かを伝える、伝わることの本質を体感しました。

## \* 一人の青年の成長より

学童期に周囲との関わり方に違和感があり、「発達障がい」が判明した先生の息子さん。その彼の高校、浪人、大学そして現在の就労準備期間の成長過程はとても興味深く、これからの子どもの進学、進路、就職を考える上でとても参考になりました。

## \* 親ができる子供の自立支援とは？

親は子どもによかれと思い、いろいろなことを先回りして提案してしまうのは、どこの家庭でも同じだとほほえましくもありました。しかし、自立を果たすのは子ども自身であり、親はそれを助ける立場を守ることが大切。「教える」「導く」のではなく、子どもの「納得」を引き出していくことを心に留めておきたいと思います。

## \* みんなの知恵で支え合う

法律により障害者差別解消法が制定されました。しかし、法律ができたから云々ではなく、身体障害、知的障害、発達障害、そしていちおう健常者であっても、さまざまな違いを持った人が共に働くために、違いをことさら取り上げるのではなく、合理的に配慮することができる、本当に豊かな社会の一員でありたいと思いました。